

## 第2回 横須賀市障害福祉計画等検討部会議事録

日 時：令和5年（2023年）7月27日（木）13時30分から15時30分

会 場：ヴェルクよこすか 第3研修室

出席委員 岸川部会長、市川職務代理者、秋元委員、海原委員、金子委員、五本木委員、下江委員、  
高谷委員、満崎委員、山邊委員、椿委員、小菅委員、山田委員、深井委員

事務局 障害福祉課 八橋課長、窪係長、熊澤

議 題 アンケート調査の結果について、計画のアウトラインについて、ほか

配布資料 別紙次第

### 審議概要

#### 1 定足数報告・一般傍聴報告

- ①事務局が司会となり開会した
- ②配布資料を確認した
- ③定員数15名中、14名の出席があり、会議が成立している旨を報告した
- ④1名から傍聴の申し出があり、全員の傍聴を許可した旨を報告した
- ⑤議事について、部会長が進行を行うことを確認した

#### 2 議事

##### （1）アンケート調査の結果について（速報）

- ①事務局より資料1に基づき、説明が行われた。
- ②各委員より質疑が行われた。

##### （2）計画のアウトラインについて

- ①事務局より資料2に基づき、説明が行われた。
- ②各委員より質疑が行われた。

##### （3）その他

- ①事務局からは特になし
- ②各委員より質疑が行われた。

## 質疑内容

### (1) アンケート調査の結果について (速報)

#### ●椿委員

回収率が低いとはいえ、地域や年齢について、母集団の分布と、アンケートであがってきている分布がそれほど変わらなければ、正確なデータとして見ることができると考える。

そのあたりの状況を、今ではなくてもいいので、出すことはできるか。

#### ●事務局

地域ごとの回答数が、かなり近い印象はある。

今後、そこも含めて集計し、お伝えできるようにする。

#### ●下江委員

障害の種別の分布について、精神の手帳を持っている方向けのアンケートが、途中経過で総数 235 件だが、そのうち、1 級の精神保健福祉手帳を持っているのは 14 人だけ。割合でいうと少ない。

重度の人の声が認識されず、小さくなってしまっているのではないか。

#### ●岸川部会長

「どのように暮らしているか」を問う設問で、「家族と同居して暮らしている」が多い。これは、一人暮らしの方のところを送付されたものには、あまり回答できていないと読み取ることもできる。

「誰が回答しているか」を問う設問で家族が多いことから、一人で回答できない方が多いということが推察できる。

「今後どのように暮らしたいか」を問う設問で、「家族と一緒に暮らしたい」が多いが、家族が回答していることが多い中で、主語があいまいで、家族の意向と読み取ることもできる。

クロス集計で、家族が回答している場合、本人が回答している場合でわけて分析すべき項目もあるのでは。

#### ●海原委員

「どのように暮らしているか」での「入所施設で暮らしている」、「今後どのように暮らしたい」での「入所施設で暮らしたい」は継続してということなのか、新しく入所したいのかが知りたい。

#### ●事務局

クロス集計していけばわかる。

本日お出ししたのはまだ集計の途中のものなので、もう少しお待ちいただきたい。

#### ●五本木委員

年齢の分布を見ると、こどもが少ないという印象がある。

障害児にはどのくらいの数アンケートを送っていたのか？

●事務局

11歳未満は、約250人に送っている。

●金子委員

災害時のアウトラインは、どのように計画に書いていくのか。  
危機管理課などと連携をとっていくことになるのか。

●事務局

障害福祉計画の中で、目標を記載することは考えていない。  
危機管理課でつくるものの中で、考えていくものという認識。

●小菅委員

難病のアンケートは、まだ集計していないだけという理解でよいか。

●事務局

おっしゃる通りです。

●小菅委員

年齢に関する質問で、「40歳以上」とまとめているが、何歳までか。高齢者も入るのか。

●事務局

身体障害と精神障害の方については、65歳未満を対象を絞ってアンケートを依頼している。  
また、介護保険との関係もあり、40～64歳としている。  
ただし、療育手帳を持っている方については、年齢の制限をせずに抽出している。

●下江委員

65歳以上の長期入院者や、一人暮らしの方が多い中で、支援しなければいけない対象をアンケートの対象から外しているのは、どうなのだろうか。

●小菅委員

今回はもう終わってしまっているが、次回以降はそこも入れたほうが良いと考える。  
また、成年後見制度について、「わからない」の割合が高いということが目立っているが、本人を守るための制度なので、解決していかなければいけないと思う。

●高谷委員

「今後どのように暮らしたいか」の設問は、横須賀市内にという前提なのか。

●事務局

今回は、そのような前提にはしていない。

●高谷委員

地域という言葉がよく出るようになったが、この地域というのは人によって違う。生まれた場所、住んでいる場所、仕事をしている場所がバラバラなこともある。

「どこで」どのように暮らしたいかというのは、現状を把握するうえで必要なことだと考える。

●金子委員

一番最後の自由記述欄で、未集計となっているが、現時点で、困りごとや要望など、目立つものはあったか。

●事務局

交通手段についてのご意見が多かったかと思う。

バスが使いにくいなど、移動に関する困りごとが多かった印象。

●山邊委員

五本木委員がおっしゃったとおり、児の回答が少ないのは気になった。

医ケアの項目があるが、対象がどうしても少なくなるので、そういう方々の声を拾っていけるのかどうかが大事だと思う。

●岸川部会長

母数が少ないところの声を反映するのは大きな課題。

アンケートは数値化されてしまう。母数が少ない対象や、答えるのが困難な重度の方々については、アンケート以外のところから意見をもらう必要がある。

電子での回答が意外と少なかったというのは残念。

●五本木委員

どの世代が電子で回答しているかというのは、今後わかるのか。

●事務局

わかる。

●五本木委員

予想としては、児童の保護者は、電子で回答するのだと思う。

児童が対象として少ないので、数字が伸びなかったのでは。

●岸川部会長

「あなたは何歳ですか」で、40歳以上を選択した方が多かったというのもあるかと思う。

●市川職務代理人

今回は、配布してしばらく経ってから、はがきで「回答されましたか？」というものを送っていた。今回は送っていないのか。

●事務局

送っていない。

●市川委員

期間が長いと、当事者団体や親の会のちょっとした集まりなどの時に、声をかけあって一緒に書いたりということも期待できる。

次回は、やはりもう少し期間が長いといいのでは。

●岸川部会長

一般的な研究の回収率としては、3割行けばいいほうだと思う。

例年を考えるともう少し多いといいが、母数としては問題はないと思う。

今回は速報値ということでいろいろ意見を言わせていただいたが、今後事務局でさらに集計していく中で、反映できるのであれば、お願いします。

## (2) 計画のアウトラインについて

### ●岸川部会長

国の指針と、それをどう載せていくか話していただいた。

障害とくらしの協議会の意見をどのように反映させていくかが重要だと考える。

スケジュールでいうと、いつごろまでに、このアウトラインを固めるのか、教えていただきたい。

### ●事務局

11月にパブリックコメントを予定している。可能であればその時点である程度大枠が固まっているのが望ましい。検討部会でいうと、第5回までで固めたい。

### ●岸川部会長

それでは、今回は、個別の具体的な内容というよりは、アウトラインについて話し合うということとします。

### ●海原委員

実績がベースになっているが、本来であれば、数値目標は、ニーズに合わせて出していくべきだと思う。断らなければいけなかった相談数がどこにも出てこない。

前回計画を作るときから、重要なのはニーズだという話をしていたと思う。

生活介護や移動支援は、希望する数はたくさんあるが、通えない、断られるという現状がある。

### ●事務局

基本は実績が事実なので、それを踏まえて、これから伸びるのか、横ばいなのかというところを押さえつつ、計画を作っていく。

個別のサービスについてニーズを全て把握するのはむずかしい。

現実的に、相談支援事業者が増えそうなのか、相談支援専門員が増えそうなのかをふまえ、その場合どのくらい見込み量が確保できるのかを計画としていく。

また、増えない場合には増えるための取り組みはないかということも考える。

見込み量確保のための方策は今まで記載していなかったが、今回から入れる。

### ●海原委員

自分がやっているところは、ニーズはあったものの断ってしまった人数はわかっている。

今後、その数値の報告はやっていく必要があるのではないかと思う。

計画作りだけの話ではなく、その積み上げは必要だと思う。

### ●岸川委員

実績に基づく数値の目標だけだと見えない部分がたくさんあって、裏に隠されているものを知るためには分析をしなければいけない。

ニーズがあって、そのニーズに対する現状から課題を抽出して、今後はこういうことができればよい

というような方向性みたいなものが、それぞれの項目ごとに分析的に書いてあると、計画が数字だけではなくて、今後のことが盛り込まれているということで、だいぶ変わってくると思う。

●下江委員

P 2 (2) 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築について、成果目標に連絡協議会の開催とあるが、これは成果目標というのか。

安心して横須賀で暮らせるまちづくりのための目標値を示すべきでは。

P. 6 (6) 相談支援体制の充実・強化等について、成果目標に基幹相談支援センターの設置の継続とあるが、活動の具体的な目標を示すべきでは。

●事務局

今回、今までいれていなかった「活動指標」というものを入れていて、その中に具体的な件数等を入れている。

●深井委員

スケジュールのうち、アンケートと並行して行う予定の「各団体へのヒアリング」というのはどうなっているか。

●事務局

医ケアの関係で、このアンケートだけでは拾えない部分について、療育センター、五本木さんのところ、医ケア児の支援学校、医ケアに関わる関係機関に、別でアンケートを実施した。

現時点では、医ケアの当時者 40 件くらい送って、16 件ほどの回答が来ている。

どこかの段階で、参考として結果をお知らせする。

●山邊委員

目標達成のための方策について、それをどこがイニシアチブをもってやる等は書かなくていいのか。

●事務局

項目によって書きっぷりの濃淡は出る。

障害福祉課だけで対応できそうなものと、関係機関との調整が必要なものがある。

調整が必要なものについては、この段階では具体的にかけるものと、そうでないものがある。

現実的でないことも書きたくないし、かといって「検討します」だけ書くというのもよくない。

現実的なところを調整したうえで、記載していく。

●岸川委員

なぜそれを書くのかという根拠が必要。根拠はアンケートや、関連団体の声を参考にしていく。

できそうでできないところをどのようにできるようにしていこうか、ということが特に重要になると思う。

●事務局

見込み量には現状と課題が載っている。

そこがしっかり書かれていれば、今は難しくても、今後に向けてこういうことができるということを見込み量確保のための方策のところに書くことができる。

●秋元委員

P 6（6）の活動指標で、「指導」という強い言葉が使われている。

なにか意図があるのか？

●事務局

国の指針に載っているものをそのまま持ってきてしまっている。

指導というよりは、アドバイスというニュアンスで書いているもので、やわらかい表現にかえることは問題なくできる。

●秋元委員

当事者が見たときに、指導というと少し身構えてしまうかもしれない。

●事務局

おっしゃるとおりだが、P 6（6）のご指摘の項目は、支援者支援について書かれているものであり、事業所に対して行う指導という意味合いなので、当事者が身構えたりということはないかもしれない。とはいえ、表現にこだわりはないので、今後ご指摘があれば考えていきたい。

●五本木委員

アウトラインには、障害児の相談支援をプラスで考えていかなければいけないということで見込みが入っていると思うが、現状の大きい課題としては触れられていない。

現在、療育相談センターの計画相談がいっぱいいっぱいになってしまって、セルフに移行するという方向性が出されている。

学齢期は福祉サービスが大幅に変わるわけではないので、セルフでできないかと言われればできなくはないというのが現実ではある。

しかし、18歳になったあと、大人になったあとに相談支援にどうつないでいくのか、自分で探すのか、いったん療育相談センターに戻して次の場所につなげてくれるのか、というところを、課題としてちゃんと捉えたうえで、相談支援事業所の拡充や支援員の増員につなげて行って欲しい。

●市川委員

強度行動障害になりうるが、そうならないように支援をされているからなっていない人もいる。

なりうる人を支援できているグループホームがこれだけあるという形にするのもよいのでは。



●事務局

「なりうる人」について、症状などで判断して特定しなければならない。数値化するのはとても難しい。障害支援区分でできる要素もあるが、それだけでは把握できない部分もある。

今はいい支援をされているから落ち着いているという判断が難しいように感じる。

●岸川委員

「程度区分」だと、できるかできないかという判断だったが、「支援区分」は、支援されている時点で「できない」という考え方。支援されているからそこに落ち着いているということで区分が決められているはず。

認定調査の結果を一つの根拠とするのもありなのでは。

●事務局

正式ではなくても、考え方として、障害支援区分4以上という考え方もある。

●海原委員

強度行動障害じゃなければ重度じゃない、ということではない。

支援区分4以上でこういう人のような書き方のほうが、数字としては拾いやすい。

●事務局

国の指針で、「例えば、重度行動障害、高次脳機能障害、医療的ケアの必要な重度の方の見込み量を出すのが望ましい」というような表現があったため、「強度行動障害」というものを入れたが、この場で、似つかわしくないということであれば、障害支援区分に置き換えてもいいのでは。

●市川委員

障害支援区分2・3でも強度行動障害に困っていることもある。

強度行動障害という病名があるわけではなく、支援の仕方によっても変わってくる。

県も使いたくないと言っているが、ではどういう風と呼ぶかみんな悩んでいる。

●岸川部会長

強度行動障害という言葉が独り歩きしているところもある。

適切な支援があればそうはならないということも含め、実際の部分でやっていかなければいけないと思う。

### (3) その他

#### ●事務局

特にありません。

#### ●満崎委員

重度訪問介護に、横須賀市内で対応できる事業所が少ない。  
そこが増えれば、見込み量が増やせるのではと思う。

#### ●事務局

市として、重度訪問介護の指定を受けてもらえるようにヘルパー事業所に投げかけていかなければいけない。ただ、それにあたっては、重度訪問介護の研修を受けてもらわなければいけない。

体制の問題や、お金の問題もあるので、インセンティブがあれば受けようとなったりということもあると思う。

#### ●岸川委員

ニーズに対して、事業所が少なくて対応できておらず、実際に困っている人がいるという現実があることと、そこをどのようにしていくのかという方向性を計画で示していきたいと考えている。

#### ●海原委員

協議会からの資料について簡単に。

これまで、現状と課題のところをあまりやって来なかったが今回はしっかりやった。

まず、委員さんたちが現状をどう捉えているのかというところを落とししたうえで、各部会で必要だろうというところを落とし込みして、数値目標や見込み量に入れ、計画に新たに追加してほしいところを、最後に3つ書いた。

1つ目は、複合的なサービス利用の促進として、現在バラバラなサービスをどのように連携していけるようにしていくのかを考えなければならないということ。

2つ目は、意思決定支援に基づく介護保険サービスとの協働で、ただ単に65歳になったから介護保険に移行してくださいということではなく、きちんと意思決定や、ご本人がどう思っているのかというところをもとに、介護保険サービスとの協働をしていきたいということ。

3つ目は、福祉型の障害児の入所施設について、いわゆるしらとり園がその役を担っているとよく言われているが、しらとり園は県立なので、三浦半島地域の部分だけではないとなると、福祉型の入所施設の設置は急務だということ。

以前はざっくりだったが、今回は具体的な提案をしている。

課題を明確にしたうえでとりいれてほしいことを書いてある。

#### ●岸川委員

この意見書は、かなりの労力を割いている。

支援協議会にはいろいろな部会があるが、それぞれの部会で現状と課題などをあげてもらったうえで、実務者運営会議で意見をだしたあとにまとめて、それをさらに全体会でも確認をし、意見をもらっている。

これは横須賀市内のいろいろな人たちの想いと捉えて欲しい。

それを今度は、検討部会で、実現可能な計画として、しっかりと落とし込んでいかなければいけない。引き続きよろしくお願ひしたい。